

T-Cha

東京文化資源
会議

Tokyo Cultural Heritage Alliance

ニューズレター

Yumi
Shishido



Yukiko
Osaka



Naofumi
Suzuki



Masafumi
Ara



近代スポーツから
プレイへ
誰もが参加する
インクルーシブな場を

「スポーツ 文化資源」

近代スポーツゆかりの地

野球やサッカー、テニスなど、私たちが日常的に親しんでいるスポーツの多くが、明治期に外国人教師や欧米からの留学経験者らによってもたらされ、国内に定着してきました。大学が集積していた御茶ノ水や九段下あたりのエリアを中心に、担い手である指導者や学生らが行き交った場所として、今では「近代スポーツゆかりの地」となっています。

ミズノをはじめとしたスポーツ店が立ち並び、「スポーツ店のメッカ」となった神田小川町や神保町一帯は、1964年の東京オリンピック開催以降、スポーツをレジャーとして楽しむ機運とともに、スポーツブームを発展させてきた地域でもあります。東京文化資源会議のSPORTSPTは、これらの歴史的な文化資源に向き合うとともに、これからのスポーツのあり方を考えることをコンセプトとして2016年に立ち上がりました。



Yumi Shishido × Yukiko Osaka × Naofumi Suzuki × Masafumi Ara

座長である鈴木直文さん（一橋大学）は、「近代スポーツの広がりや、規格化されたルールによってやる人と見る人が分かれてきたが、もっと、街中で自然に遊びが増えるにはどうすれば良いかを考えてみたい」と話します。



市生活史に造詣の深い森田曉さんと「神田小川町からスポーツをひらく」というテーマでのトークイベントなどを開催してきました。

規格化からの逸脱 インクルーシブへの模索

実際に現場で実践することがスポーツの醍醐味です。そこで、毎年10月末に小川町の小川広場で開催される「神田スポーツ祭り」では、障害者スポーツの要素を採り入れながら誰でも楽しめるようルールを柔軟に改変したスポーツの実践を提案しています。



スポーツと聞くと、すでにルールが厳密に定められたものを想像しますが、実はそうではありません。誰でも参加できる。健常者も障害者ともに遊び身体を動かしながら取り組むものであり、スポーツは可変的なもので、と鈴木さんは話します。また、地域に残るスポーツに関わる歴史資源を掘り起こす試みとして、PTメンバーである商店街研究やスポーツ社会学を専門とする新雅史さんと都

PMである逢坂裕紀子さんは、近代スポーツにおける規範意識やルールに縛られず、より柔軟に遊び方を模索することにスポーツの可能性を感じると話します。「スポーツPTメンバーの1人であるシッティングバレーボール選手の佐々木一成さんが語っていたのですが、既存ルールの徒競走をしても、まったく面白くない。ゲームは、自分が勝てるかもしれないし負けるかもしれない状況で勝った時に初めて面白いと感じるもの。だからこそ、ルールをその場に合わせて設定し調整する楽しさがあることで、誰もが参加できる余白が生まれる」

2019年5月には、御茶ノ水ラシティカンファレンスセンターを活用し、ホールでオフィス備品を使った遊びや、施設全体を利用して地域の歴史と紐付けたクイズラリーなどを企画しながら、いかにして多くの人たちを巻きこみながら多様な遊びができるかを実践してきました。PTメンバーの丸戸遊美さんは「元々スポーツは苦手だったが、私が想像していた以上にスポーツの裏側にたくさん

公共空間を活かして 誰もが参加できる場を

スポーツは、空間を活用した場所性、その場に生きる人たちがルールを生み出す文脈性、具体的な身体性を伴う活動であるコンテンツ性の3つの組み合わせによって生み出されますが、近代化の過程のなかでルール化が徹底されるとともに、より高く、より早くという競技構造が広がったことの弊害から、昨今では、オルタナティブなスポーツを求める動きが活発になっています。

「近代スポーツは、ルールに合わせて空間が常に用意されていたが故に、やるのが簡単な一方、できる人たちが参加出来ないエクスクルーシブな要素もあった」と新さんは指摘します。スポーツPTは、それらを再度解体し、脱近代化によって、より広く誰もが参加出来るインクルーシブなスポーツのあり方を模索しているといえます。「脱文脈性だからこそ、



脱近代化によって、より広く誰もが参加出来るインクルーシブなスポーツのあり方を模索しているといえます。「脱文脈性だからこそ、

近代スポーツは世界中に同一のものが広がった。決められたルールにたどるのではなく、自ら生み出すという創造的行為を通じて、ここだったらどう遊ぶ？何する？という発想を入れていくべき（鈴木）。



その場で作り出すスポーツを追求するなかで、公共空間の活用にも着目しています。現在は、上野の仲町通り商店街を活用し、商店街の活性化と紐付けながら場所の特性をいかした提案を行っています。折しも、新型コロナの流行は飲食店の時短営業や三密回避による室内空間の制限など、商店街の賑わいにも大きな影響を及ぼしました。一方、新たな動きとして、道路占有有許可の規制緩和により、道路空間にはみ出して営業出来るようになるなど、屋外空間を積極的に活用する動きも登場してきました。「道路空間と店舗の境界が曖昧になってきたからこそ、公共空間を活かしたスポーツがあってもいいはず。商店街という地の利を活かすことで、地域振興にもつながっていく」（新）

プレイフルを軸に 遊びは創造性の源

新型コロナによって、接触や身体性を伴う行為の制限を目的たりし、改めて、接触とは、遊びとは、という問いが社会全体に浮かび上がってきました。



「遊びは、思わぬ出会いや偶然性、真似する/されるなどの面白さがある。遊び、プレイと向き合うことは重要なテーマ」（新）

「プレイ」という言葉には、明確なルールではなく、いたずらや曖昧なものへの関心や楽しみ方があると鈴木座長は話します。仲町通りの取り組みもテーマは「プレイフルネス」。プレイを軸とする創造的な空間づくりを大切にしています。東京という都市の物理的な空間において新しい楽しみを見出す「プレイグラウンド」を実現させていきたいと鈴木座長は語ります。

決められた規格やルールに縛られずに、その場でルールメイキングをする楽しさ、ある種のハッキングのような行為にこそ、創造性の源泉があります。幼少期に公園で遊んだ時のような創造的な行為を、都市のなかにどう実現させていくかが、今後ますます問われてきそうです。

（記事構成：江口晋太郎 撮影：鈴木渉）

T-Cha NOW TOKYO PROJECT

東京文化資源会議では、民産官学の様々な分野の専門家や実践者が集い、東京の各地域で育まれている様々な文化資源をハード面・ソフト面から活用するプロジェクトを推進しています。ここでは、東京文化資源会議全体の動向や各プロジェクトの近況をお知らせします。



ガイドウスタンド 利用調査の 報告書作成 実践と 研究の両輪を

上野スクエア構想を起点として、不忍池のほとり・仲町通り界隈で継続中の歓楽街まちづくり「アーツ&スナック運動」。前号でもご紹介しましたが、街の街灯に着脱可能な立飲みテーブルを取り付けて新しい飲食空間を提供する「ガイドウスタンド」。

「ガイドウスタンド」の利用調査&利用者アンケートを東京大学都市デザイン研究室が昨年10月に実施し、結果をとりまとめたブックレット（報告書）が3月1日に完成しました。全44ページに及ぶ詳細なレポートになっています。同内容は、日本都市計画学会の報告集にも掲載されています。

実践と研究が結びついた、いわゆる「タクティカル」なまちづくりが界隈に定着してきています。引き続き注目ください。
<https://www.ikenohata-nakacho.com>

マニフェスト発表 シンポジウム 開催予定 春から番組も 開始

広域秋葉原作戦会議プロジェクトでは、昨年10月に発表したプロジェクトのマニフェスト2・0を広くアピールするためのシンポジウムを現在企画中です。シンポジウムは21年5月開催のひじりばし博覧会にて実施を予定しています。

またNIT都市開発株式会社が主催する、コロナ禍でダメージを受けた秋葉原を「絵」で盛り上げていくことを目的とした「秋葉原応援プロジェクト」<DRAWMYAKIBA>

キャンペーンに、千代田区都市計画マスタープラン改定に際して提出した独自マスタープラン案内の図を応募しました。4月からは、秋葉原のオノデン1階にオープンしたYouTube放送用スタジオ「AkibaTV STUDIO」にYouTube番組の放送開始も決定しています。来年度のプロジェクトの活動にもご期待下さい。

本郷の見所を 映像で 地域の記憶を 語り継ぐ

本郷のキオクの未来プロジェクトでは、2020年12月11日から12日にかけて、「鳳明館で本郷の映像をまとめようワークショップ」を実施しました。これは、コロナ禍が落ち着いた2020年9月6日に行った「オンラインまちあるきin本郷」の成果を10分程度の映像に再編集して、誰でも自宅から本郷まちあるきを体験できるようなコンテンツにしたものです。



東大前駅から始まり、西片、鳳明館、求道会館、金魚坂などの名所を通りながら、プロジェクトメンバーが本郷の見どころを紹介しています。成果はこちらのYouTubeリンクからご覧いただけます（<https://youtu.be/wzmq71FL4>）。また、この映像は2021年3月21日に行われる文京映画祭でも上映予定ですので、ぜひご覧ください。

東京歴史文化 まちづくり 連携をさらに推進 制度設計議論を 深める

リノベーションまちづくり制度研究会（リノベ研）では、昨

年7月のひじりばし博覧会で「東京歴史文化まちづくり連携」の立ち上げを果たしました。その後、活動はやや停滞していましたが、今年に入り、研究会メンバーの充実も図りながら、第2期研究会として活動を再開しています。

研究会では、都内各地区の歴史文化まちづくりが直面している課題を包括的に整理した上で、主に事例を取り上げながら建築基準法など空間を規定する法規制や資金面、特区との連携の可能性などを視野に入れながら、具体的な制度設計の議論を深めていこうと考えています。

神田かいわい 指標への取り組み

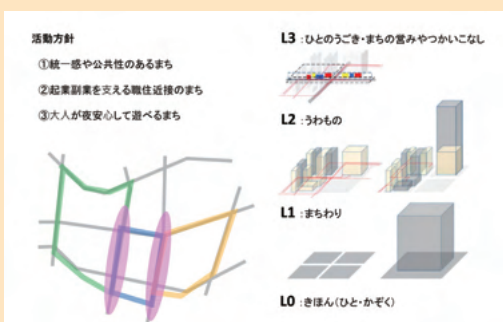
神田まちづくり懇談会では、神田地区の将来的な姿とその実現手法を考えるため、「神田かいわい指標」の開発に取り組んでいます。

懇談会では、統一したイメージが形成されづらいこの地区の特徴として、①統一感や公共性のあるまち、②起業副業を支える職住近接のまち、③大人が夜安心して遊べるまち、の3つを示しました。

コロナ禍の2020年7月に開催されたひじりばし博覧会2020では、地域に関係する皆様と神田のかわいさとは何かというテーマのワークショップを実施しました。神田かいわい指標は単に指標を提示するものではなく、神田のそれぞれの地区の将来イメージとまちづくりの展開予測、それらに対応する指標群とその表示という構成で考えています。

指標群は、5つの階層性（L0〃基礎的な事項、L1〃まちわり（敷地）、L2〃うわもの（建物）、L3〃人の動き・街の営み、使いこなし、L4〃重なりとしての特徴・多様性）を持ったものとして整理されます（図表参照）。

区と地域の皆で協議を進めている神田警察通り沿道整備推進協議会からの提案とも連携できるような神田かいわい指標をご期待ください。



上野ナイトパーク
夜間鑑賞ツアー実施
サイト開設で
事業推進

上野公園を中心とした周辺地域との連携を加速させ、ナイトタイムエコノミーを推進する民間主導の上野ナイトパークコンソーシアムは、文化庁の令和2年度博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業を採択し、事業を推進してきました



に伴う年始早々の緊急事態宣言の発出により、当初の事業内容から大幅な変更を余儀なくされました。

しかし、東京国立博物館や寛永寺、国立科学博物館などの関係各所のご協力により、今後の主力事業であるモニターツアーの実施や、研究員らへ交えた情報発信コンテンツとしてのポッドキャストの配信などが行えました。モニターツアーにご参加いただいた皆さんも、誠にありがとうございました。

また、これらの活動やコンソーシアムとしての活動を情報発

信していくためのウェブサイトも開設しました。本事業のフィードバックやご意見などを踏まえ、次年度以降、観光促進を推進する基盤づくりを今後も注力していきながら、上野を軸とした様々な地域と連携した夜間利用の促進を図ってまいります。
<https://uenonightpark.com/>

文化資源の博覧会
ひじりばし博覧会
2021
5月5日開催予定

2020年7月に御茶ノ水ソラシテイカンファレンスセンターで開催した「ひじりばし博覧会」は、東京文化資源会議の各PTの活動報告や様々な識者へ交えた議論・対話の場を通じ、今後のPTの活動を推進していくための博覧会イベントとして開催しました。

本年、2021年度も、5月5日に同じく御茶ノ水ソラシテイカンファレンスセンターにて開催いたします。昨年は、新型コロナウイルスの蔓延によりほぼオンラインのみでの開催でしたが、今年度は、オフラインとオンラインを混ぜ合わせたハイブリッド型での開催を予定しています。各PTともに様々なコンテンツやフォーラムを予定しています。ぜひとも、現地にPTメンバーとの交流や対話の場としてご参加ください。

編集後記

新年度の準備に取り掛かる中、COVID-19が拡大して「1年」が経ったことを改めて認識します。普通だと思っていた生活スタイルが変更され、さまざまな年中行事が中止・縮小されました。一方で、これまでに経験したことのない緊張感の中でも、文化は継承され、新しい形で生まれてきたと感じています。身近なところに目を向け、あるいはインターネットを介して交流が生まれました。文化とは人が生きて暮らしている限りは途切れることなく繋がっていく強いものであると感じさせられた1年でもあったのです。(陸)

2020年は新型コロナウイルスによって様々な催しや企画が中止・延期となりました。一方これをきっかけに新たな価値観やあり方が模索され、社会全体が変革の動きを見せ始めています。人が生きていく上での文化の重要性なども議論されるようになりました。2021年は、そうしたシフトチェンジを生み出す基盤が作られる年になると期待しています。(江)

[ティーチャ] 東京文化資源会議ニューズレター No.14

読み、旨み、味わいのある東京の文化資源的エキスを3ヶ月に一度、お届けします。

編集：東京文化資源会議広報委員会 デザイン：波井史生(PANKEY inc.) 執筆：江口晋太郎(TOKYObeta Ltd.)

写真：鈴木渉 印刷・製本：スターツ出版株式会社 発行人：東京文化資源会議 発行日：2021年3月31日

〒110-0005 東京都台東区上野2-11-1藤井ビル3階 TEL：03-5244-5450 MAIL：info@tcha.jp URL：http://tcha.jp/

T-Cha

T-Cha